# 畑の学校
## ご参加ありがとうございました！

この１年間畑の学校にご協力頂いた皆様ありがとうございました。ジャガイモの植え付けから始まり、サツマイモ・落花生の植え付け準備・植え付けや夏場の草取りたくさんのお手伝いを頂き今年も無事終了する事ができました。

私たちは、子供たちの成長過程の中でいろいろな経験をしてもらいたいと思い、この八千代でしか出来ない八千代ならでは普通の光景を体験してもらいたくて、八千代にたくさんある農地の中から、ご協力頂いた土地を借り受け、畑の学校を企画してきました。

私達ＮＰＯオイコスはこの他、夏場の“川の学校”や“米つくり”を通して八千代らしさと、自然環境の大切さを発信し続けています。畑の学校もその中の一環と考えて実行してきました。

▲子供たちも一緒に植えつけ

今年はソラマメ・じゃがいも・とうもろこし・・ゴウヤ・スイカ・落花生・さつまいも、とたくさんの収穫もでき大地の素晴らしさと大切さを私自身も感じてきました。今後は“ヤマトミクリの里づくり”の下でこの畑の学校を続けていきますし、オイコスメンバーも協力をしていくつもりでいます。今後の皆様のご協力をお願いし、一年間のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。（金室）

▲トウモロコシの収穫

▲真剣に説明を聞く参加者のみなさん

## 事務局ニュース

### 「東日本大震災義捐金」を寄付しました

かねてより募金活動をしてきましたが、今般千葉県共同募金会を通じ、被災された方々への援助として、６８，５６０円を寄付しましたので報告します。寄付をして頂きました皆様ご協力ありがとうございました。

### 表彰おめでとうございます

オイコス会員･加藤賢三氏(前代表)が八千代市政の発展に功労が顕著な人として､平成２５年１１月２３日に「篤行者表彰」を受けました。

### 編集後記

新年を迎えてひと月が過ぎましたが、年度でいうと事業のまとめの時期。今号は米作りの一年を振り返りました。次年度には、新たなチャレンジで活動を発展させていきます。乞うご期待。
（ＴＡＮＡ＝Ｊ）

発行責任者：川瀬　純一
事務局＆問合せ：小原　　翔
☎：047-450-4663
mail：info@yachiyo-oikos.jp

～～よみがえれ花輪川～～

# 八千代オイコス かわら版

第 25 号

平成 26 年 2 月 1 日発行
NPO 法人八千代オイコス
http://www.yachiyo-oikos.jp/

福寿草

## 印旛沼のあれこれ　**第 11 話 「本佐倉城」**

本佐倉城より京成線(左佐倉、右酒々井)北印旛沼方面を望む

千葉城を本拠にしていた千葉氏がこの地を離れて、本佐倉城は千葉輔胤（ちばすけたね）が文明年間（１４６９～１４８６年）に印旛沼の南岸の佐倉（本佐倉）に築城し、豊臣秀吉によって滅ぼされる迄、千葉氏はこの地を拠点として、天正１８年（１５９０年）迄の１２０年間　下総地における政治、経済の中心を占め、当主九代が居城しました。

当時の交通は船による水上交通が主であり、印旛沼は香取の海を通じて北上したり、南下して海に出るには都合の良い場所で有ったことも一因であろう。

本佐倉城は香取の海より印旛沼に入り、ほぼ正面に見える台地に築かれた。城の北西には浜宿海岸（佐倉市）を整備し、そして本佐倉城をみてさらに細長く入り込む印旛沼奥には、師戸城（現　印旛沼公園）、臼井城が沼に面して築かれていた。本佐倉城は台地全体を整形してつくられており、沼の景観が変わるほどの土木工事であったと推察される。

千葉氏は文化面にも力を注ぎ、和歌文化を育んだ。菩提寺である海隣時での歌会が開かれた事が記されているが、この佐倉歌壇を構成したメンバーは千葉氏の直臣たちであり、印旛沼南岸の佐倉の地は武士文化の中心であった。

本佐倉城は現在でも馬場、虎口（こぐち）、空掘、土塁、櫓台（やぐらだい）が保存され、関東地方を代表する戦国時代の城跡として国指定史跡になった。（田邊）

＊アクセス：京成電鉄　大佐倉駅から徒歩１０分
＊資　　料：(財）印旛沼環境基金発行「いんば沼　第３３号」より抜粋

▲印旛沼より本佐倉城を望む

▲本佐倉城本丸周辺

## オイコス米作りの一年

１２月２２日（日）、恒例のオイコス年末行事「餅つき会」が新川のほとりに設立された＜やちよ交流センター＞に場所を借りて楽しく行われました。

そもそもオイコス「餅つき会」の始まりは、７年前の平成１８年にオイコス活動の一環として【農作業の実態を知り、米作りの体験をする】事を掲げ、萱田に田んぼを借りて稲作を体験することから始まり、数年の経験を経て田んぼを神久保（いものくぼ）に借り換え、それを機に稲の種類をもち米に変えて、収穫後の新米で会員が集まり餅つきを始めました。

毎年４月末頃先ず「田起こし」(硬くなった土を耕す作業)、「代かき」を済ませ、５月連休に参加者全員により、今では余り見かけぬ風景の手植えでの田植えを行っています。

秋の収穫までには、田の草取りを２回ほどと畦の雑草刈り数回と手は懸かります。
今年は自慢の天日干しの稲掛け棚が台風の影響で二度も倒され苦労しました。

臼２台、他にかまど・蒸籠等準備し更には前日米を水に浸したりと手数は掛かりますし、今年は豊作で米の量もタップリ、お陰で餅つきの労力は大変なものでした。自分達での手作りによる餅つき会を皆で楽しむ時間はオイコス会員相互の親善に大いに成果が上がりました。

今年の餅は最高に美味しく出来上がりました。(川瀬)

## 稲刈り体験

今年初めて、親子三人で参加させて頂きました。主人だけ田植えの前の作業「代掻き」から参加していますが(翌日・翌々日は筋肉痛に苦しんでいました)、私と六歳の息子は田植えからの参加です。

夏の草取りの作業で稲の成長していく様子を見ていましたが、今年は猛暑でゲリラ豪雨もあり、実りはどうなのかと心配でしたが、思いのほか豊作で、楽しく稲を刈り始める事が出来ました。

オイコスの方々に指導してもらい、稲の根元を握って鎌で刈り取るのですが、とても重労働でした。

息子も一緒に手伝いますが(一人では危険なので大人が鎌を握ります)、「大変なんだねー」と、お米作りの困難さを少しは実感できたようです。

稲を束にしてわらで縛り、竿に干して稲刈り作業が終了するまで５～６時間はかかったでしょうか。

当日は九月下旬でも真夏日で、最後はもうヘトヘトでしたが、毎日を電車や車などの騒音の中で暮らす身には田んぼの静けさが心地よく、貴重な体験が出来た事に満足した一日でした。(明瀬)

## 餅つき会

今年は４月にオープンした農業交流センターに場所を移し、開放的な広場で晴天の中での開催となりました。

昨年まで薪で火を起こしていましたが今年はプロパンガスに代えたことで、餅米の蒸しむらがなくなりました。

昨年より餅のつき手は少なく四名のみで、二臼に二名ずつ分かれ大変でしたが、蒸し時間が正確になったおかげで、ほど良く休憩を入れながら作業することができて、つき手としてはとても助かりました。

昨年までは蒸した餅米が餅になるまでに冷えてしまうことが原因で粒が残ってしまう事が何回かありましたが、今回は昨年の失敗を生かして、臼と杵を事前にお湯で温めることで、粒が残らない美味しいお餅がつきあがりました。

大鍋で作った豚汁や、つきたてのお餅をその場で食べるのは、本当に贅沢で美味しかったです。

世代を越えての談笑もあり、充実した餅つき会でした。

(川瀬公朗)

▲僕も刈ったよ

▲稲刈りを終え、ハザ架けもしました

▲息もぴったり！

▲広場で休憩～のんびり

## 「サポートセンター祭り」に参加

１１月２日（土）第１０回サポートセンター祭りがフルルガーデン噴水広場で開催されオイコスも参加しました。八千代市民活動団体の中から１７団体が展示、７団体がステージでの演技に参加しました。今年は寒さを考慮し昨年より時期が早まりました。

早朝からオイコスメンバー７名で準備に入りました。ブースはステージ前の一等地で手早くボードに我々の活動パネルを取り付け、机上には竹炭、竹酢液、飾り用炭、床には「畑の学校」での収穫物のサツマイモを沢山並べました。

開会式には秋葉市長が挨拶されバンド演奏も加わり盛り上がりました。時間と共にお客様も見え始めパネルの説明に加え竹炭類、サツマイモの販売も順調に進みました。特に長さ５０㎝にもなるサツマイモには皆びっくり、手で触ったり、歓声があがったりと人気を独り占めしました。

▲今年のポスター

団体紹介のポスター人気投票では４位と入賞は逃しましたが子供達が楽しそうに川遊びをしている情景に母親達の関心が集まりました。

今年も運営委員長として金室会員、スタッフとして田邉会員が活躍し祭りの成功に貢献しました。(島)

## 秋のエコウォーキング

平成２５年１１月１０日（日）荒れ模様の天候でしたが雨にも降られず花輪川・桑納川周辺を中心としたゴミ拾いと田園地域の歴史散策を行いました。例年３月～４月に『菜の花エコ・ウォーキング』として開催でしたが、前回（平成２５年４月）は荒天のため中止したため秋の開催となりました。

今回は１０月中旬の台風の影響による土砂崩れで東葉高速車庫下の道が交通止めになり車両基地の東側を迂回してＮＴＴの電波塔（俗に言う高津新道）横を通るルートに急遽変更しました。おかげで東葉高速鉄道の車両基地を一望出来る絶景ポイントを知ることが出来ました。

参加者は関係者１１名その他７名と若干少ない参加者でしたがゴールの小川の階段では暖かい高秀牧場の搾りたての牛乳と甘酒に舌鼓を打っていました。

たくさんのゴミを集めた達成感と八千代の歴史散歩を通して自然や環境の大切さを学び私たちが住むふるさと八千代に深く触れる大変貴重なイベントでした。
（宮竹）

## 花輪川の現状その1=最上流部

我々の活動の拠点である花輪川は八千代市北西部、八千代緑が丘の住宅地の地下(暗渠)から発し東葉高速鉄道の車両基地の脇を流れ桑納川～新川を経て印旛沼に流入する２ｋｍほどの小河川です。花輪橋を過ぎると川として姿を現します。

▲3 面コンクリート最上流部

桑納川の落ち口まで側道があり、４個所に川面まで降りることのできる階段が施されています。八千代市にまだ残されている田園の自然風景の中を流れる数少ない小川です。

さて、最上流部ですが、そこは３面がコンクリートに覆われていてまだ川とは呼ばれず、排水路で上下水道局維持管理課の管轄です。出発点は暗渠から雨水を中心にした水です。

▲側面からの流入水

一部生活水も混入しているらしく、必ずしもきれいとは言い切れない水のようです。そこに工場の処理水(基本的には処理基準を満たした水)、斜面からの流水、川底からの噴出水など比較的きれいな水が流入しています。
これらの水質については次回に譲ることにしましょう。

新川に代表される八千代市は印旛沼水系の都市で花輪川は印旛沼の上流に位置します。

この川の水質を良くすることはその下流である新川や印旛沼をきれいにすることに繋がります。以前、オイコスかわら版 11 号からシリーズで現在の花輪川になる前の様子を掲載しましたが、これから折に触れこの川の水質や現状について記載してゆこうと思います。
（小原）